

授業概要

科目名	聴覚検査Ⅱ					授業の種類	演習	講師名				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	2	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2	後期
【授業の目的・ねらい】 自覚的・他覚的聴覚検査の目的を理解し、実施方法を身につける。 実際の検査について理解する。												
【実務者経験】 岡山かなりや学園、まな星クリニックにて、言語聴覚士として小児の聴覚障害および発達障害分野の療育に従事する。												
【授業全体の内容の概要】 聴覚検査機器に実際に触れながら他覚的検査の検査方法を学ぶ。 現場でどのように検査が行われているか知る。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 自覚的・他覚的聴覚検査の目的を理解し、聴覚障害児・者に必要な検査を選択できるようになる。 国家試験に対応できる知識を身につける。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	他覚的聴覚検査の意義について理解できる										教科書 配布資料	
2	インピーダンスオージオメトリー（ティンパノメトリー）について理解できる										教科書 配布資料	
3	インピーダンスオージオメトリー（アブミ骨筋反射検査）について理解できる										教科書 配布資料	
4	機器を用いてインピーダンスオージオメトリーの検査ができる										教科書 配布資料	
5	内耳機能検査について理解できる										教科書 配布資料	
6	ABRについて理解できる										教科書 配布資料	
7	ASSRについて理解できる										教科書 配布資料	
8	耳音響放射（OAE）について理解できる										教科書 配布資料	
9	耳管機能検査について理解できる										教科書 配布資料	
10	耳鳴検査について理解できる										教科書 配布資料	
11	詐聴の検査について理解できる										教科書 配布資料	
12	聴覚特別支援学校について理解できる										教科書 配布資料	
13	聴覚特別支援学校の見学を通して聴覚障害児教育について理解できる										配布資料	
14	聴覚特別支援学校の見学を通して聴覚障害児教育について理解できる										配布資料	
15	まとめ										教科書 配布資料	
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版 『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版』医学書院 『病気がみえるvol.13 耳鼻咽喉科』MEDIC MEDIA												
【準備学習・時間外学習】 授業前後に予習復習を行う。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。												